

インフォメーション・コーナー

会 告

- 平成 19 年度農業土木学会大会講演会の講演申込みについて 72
- 平成 19 年度大会講演会における「企画セッション」の募集77
- 第 23 回海外事情講演会「中国の農村整備（村鎮建設）の現状と今後の展開」 77
- 平成 18 年度第 9 回中央講習会「農業・農村分野の展開方向—環境・資源・生態系の保全・創出とその課題—」 78
- 農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....78
- 学会誌掲載報文等による通信教育について.....79
- 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について79
- 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ...80
- 農業土木学会誌への投稿お待ちしております！.....81
- 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう！！「水土の知（農業土木学会誌）」平成 20 年秋季～冬季の表紙写真の募集.....82
- 第 44 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第 3 報） 83
- 水文文化研究部会第 4 回研究会のお知らせ 83

学会記事86

農業土木学会行事の計画

農業土木学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 19 年 2 月 1 日	北海道支部	講習会 	ポンプ場の設計、農業農村整備事業における環境調和と景観配慮（仮）	北海道大学 学術交流会館	74 巻 11 号, 12 号
平成 19 年 2 月 1～2 日	京都支部	研修会、地方講習会 		金沢市石川 県文教会館	74 巻 11 号, 12 号
平成 19 年 2 月 2 日	材料施工研究部会	第 44 回シンポジウム 	土地改良施設の非破壊検査・調査と試験	神戸市兵庫 県中央労働 センター	74 巻 11 号, 12 号 75 巻 1 号
平成 19 年 2 月 5 日	国際委員会	第 23 回海外事情講演会 	中国の農村整備（村鎮建設）の現状と今後の展開	農業土木会館	75 巻 1 号
平成 19 年 2 月 8 日	水文文化研究部会	第 4 回研究会 	水土・持続のテクノロジー	虎ノ門パストラル	75 巻 1 号
平成 19 年 2 月 28 日	行事企画委員会	平成 18 年度第 9 回中央講習会 	農業・農村分野の展開方向—環境・資源・生態系の保全・創出とその課題	東京大学弥生講堂一条ホール	74 巻 12 号 75 巻 1 号
平成 19 年 8 月 28～31 日	大会運営委員会	平成 19 年度農業土木学会大会講演会 		島根大会	74 巻 12 号 75 巻 1 号

第 75 巻 2 号予定

展望：歴史と土地改良：小泉 勝

小特集：国営第 1 号巨椋池干拓の歴史的意義に関する考察

- ①食料安全保障と第 1 号国営巨椋池干拓事業の成立背景：森瀧亮介他
- ②巨椋池干拓の作業日誌に見る可知氏の設計思想：鈴木尚人他
- ③巨椋池干拓から農地防災事業までの展望：藤河洋一他
- ④新しい巨椋池排水機場の計画・設計・施工：新谷和男他
- ⑤田園都市『巨椋池』の交流と共生：八丁信正他

技術リポート

北海道支部：産業用無人ヘリコプタ搭載サーモレーサによる土壌水分の推定手法：池端克則他
 東北支部：亀岡地区二ツ橋架替工事下部工の施工事例：廣谷行治他
 関東支部：老朽化した用水施設の補修について：鈴木岳人
 京都支部：橋梁の劣化対策について：上原良太
 中国四国支部：阿南市における土地改良施設の歴史・意義の標示実験：山田達也他
 九州支部：福岡県のクリーク防災機能保全対策事業について：中尾秀美

講座：水土文化への誘い（その 12）—水土文化の将来展望：広瀬 伸

小講座：京都・巨椋池：丹下 均

私のビジョン：農業土木技術者がつなぐ新たな地域社会：秋田敦子

平成19年度農業土木学会大会講演会の講演申込みについて

研究委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請予定



平成19年度農業土木学会大会講演会は、平成19年8月28日（火）、29日（水）、30日（木）の3日間、島根大学松江キャンパスで開催されます。また、31日（金）には現地研修会が行われます。この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込みください。

今回のご案内は講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌3月号でお知らせします。

1. 講演要領

- (1) **講演資格**：代表発表者は、本学会会員に限ります。講演申込受付の際、会員番号を確認いたします。平成19年4月入会も可とします。非会員の発表は認めません。
- (2) **講演内容**：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**：12部門あります。ただし、プログラム編成上、希望部門が変更される場合もあります。
- (4) **講演方法**：個人発表とし、1人（共同研究の場合は代表発表者）1課題とします。ただし、**企画セッションについては、研究発表セッションとの複数発表を認めます**（お一人が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません）。
- (5) **発表形態**：これまでの口頭発表に加え、本年度もポスター発表を試行します。今年度は「口頭発表」か「ポスター発表」のどちらかを選んでいただきます。投稿時に希望する発表形態を選んでください。なおプログラム編成上、やむを得ず発表形態を変更させていただく場合があります。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更諸否」で「否」を選んでください。プログラムならびに発表形態は学会ホームページで5月末までにお知らせします。また発表会場の設備、ポスターの大きさ等については続報でお知らせします。
- (6) **講演時間**：口頭発表は1課題15分（発表12分、質疑2分、交代1分）です。ポスター発表には会期中にコアタイムを確保します。企画セッションは1セッション90分です。
- (7) **講演要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿を講演要旨集に収録します。
- (8) **大会概要集**：投稿票のうち、講演題目、発表者所属・氏名、講演の200字概要を、大会概要集に収録します。

2. 投稿要領

- (1) 所定の投稿票と講演原稿一式の提出および申込料2,100円（消費税込み）の納入をもって申込みとみなします。なお、送金後に発表を取消されても、申込料は返金いたしません。**郵便振替用紙および入会申込書は、本誌巻末に綴じ込んであります。**
- (2) 投稿原稿は、図・表・写真等を含め1課題2ページとします。市販のA4判上質紙（コピー用紙等、ただし感熱紙は不可）に印字した原稿で投稿していただきます。後述の「4. 講演原稿の書き方」に従い、執筆して下さい。
- (3) CD-ROM版講演要旨集の作成にご協力ください。CD-ROM作成を容易にするため、投稿原稿のファイルをPDF形式に変換して提出してください。ファイルの提出がなかった原稿については、紙原稿を画像としてスキャンしたものをCD-ROM版講演要旨集に収録します。
- (4) プログラム編成作業の都合上、投稿票と同じ内容のExcelファイルを、必ず提出してください。
- (5) 投稿原稿PDFファイルならびに投稿票Excelファイルのファイル名は、半角ローマ字表記の代表発表者名（姓 名）としてください（例：「taikai tarou.pdf」、「taikai tarou.xls」）。これらファイルを電子メールで taikai@jsidre.or.jp へお送り下さい。メール発信の際、表題（Subject）も代表発表者名として下さい。また、添付ファイルの大きさにご注意ください。
- (6) 投稿にあたっては、次の書類等を同封し、郵送の場合は事故防止のため必ず簡易書留郵便にて、表に講演要旨在中と朱書きしてご送付下さい。原稿は、汚れたり、折ったり、しわにならないよう十分注意して、A4サイズの封筒（角型2号）で送付して下さい。なお、受領確認の通知を希望される方ははがきを同封して下さい。その際、受領はがきの表には返送先を、裏には講演題目と代表発表者名を必ず明記して下さい。

○郵送してもらうもの

- 1) 講演申込料の振替の写し
- 2) 原稿

- 3) 原稿コピー 4 部
- 4) 投稿票
- 5) 投稿票コピー 2 部
- 6) 発表原稿受領はがき (官製はがき) ※受領確認希望者のみ
- 7) 入会申込書 (非会員のみ)

○データ送信してもらうもの

- 8) 投稿票 Excel ファイル
- 9) CD-ROM 版講演要旨集用 PDF ファイル

- (7) 締切:平成 19 年 3 月 31 日 (土) 消印有効 (遅延は不可)
- (8) 申込・問合先 農業土木学会事務局大会担当 (花塚) あて

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館内

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: taikai@jsidre.or.jp

郵便振替:00160-8-47993 (加入者名:農業土木学会)

3. 投稿票

下記注意事項を参照の上、必要事項を記入して原稿に添付して提出して下さい。投稿票の内容の一部は大会概要集に収録します。

- (1) 必ず会員番号を記入して下さい (4 月以降入会者は不要)。
- (2) 講演の概要は、必ず 200 字以内の日本語で記入して下さい (英文不可)。
- (3) プログラム編成に使用しますので、氏名、所属機関、講演題目 (副題も含めて) は、必ず講演原稿と一致させて下さい。
- (4) 講演希望部門 (第 1 希望・第 2 希望) とキーワードを必ず記入して下さい。キーワードは講演内容にふさわしいものを文字で記入して下さい。キーワードの例は、本誌 75 ページに掲載されていますが、必ずしもこの中から選択する必要はありません。
- (5) 投稿票および投稿票 Excel ファイルは、下記の様式で作成して下さい。投稿票の様式は本誌 76 ページにあります。また、Excel ファイルの様式は、<http://www.jsidre.or.jp/taikai/>よりダウンロードできます。

(下表の 2 段目、3 段目は、1 段目の右側にそれぞれ続けて作成して下さい)

	代表 発表者 ○印	会員番号	氏名	フリガナ	ローマ字(姓 名)	所属(和)	所属(英)	代表者 連絡先〒	代表者連絡先住所
1									
2									
3									
8									

下の段を右につづける

代表者連絡先 TEL	代表者連絡先 FAX	代表者連絡先 E-mail	講演題目	講演題目(英文)	第 1 講演 希望部門	第 2 講演 希望部門

下の段を右につづける

キーワード 1	キーワード 2	キーワード 3	写真 枚数	図 枚数	表 枚数	参考 文献 数	発表 形態	変更 諾否	講演の概要 (200 字以内)

4. 講演原稿の書き方

- (1) 原稿用紙は、A4判（横 210 mm，縦 297 mm）の白紙とし、印刷の都合上、マージンは次のようにして下さい。

上：25 mm，下：27 mm，左：23 mm，右：25 mm

- (2) 原稿は、オフセット印刷で縮写され、B5判の大きさになります。

- (3) 書式

- ① 文字：文字は、10.5 ポイント以上として下さい。標準フォントとして、MS 明朝、MS ゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使いください。特殊なフォントは極力使わないでください。また、機種依存文字（①，②，…Ⅰ，Ⅱ，…等）も使わないでください。

上下左右のマージン内いっばいに、1 行 40 字，1 ページ 40 行，横書きを標準として印字して下さい。ワープロソフトによりこの組合わせができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにして下さい。

- ② 題目・所属・氏名・本文：本文原稿の題目は、1 ページ目第 1 行と第 2 行に中央に寄せ、12～14 ポイントで和英併記して下さい。

講演者氏名（連名の場合には代表発表者名の前に○印をつける）は、第 4 行と第 5 行に中央に寄せ、10～12 ポイントで和英併記して下さい。

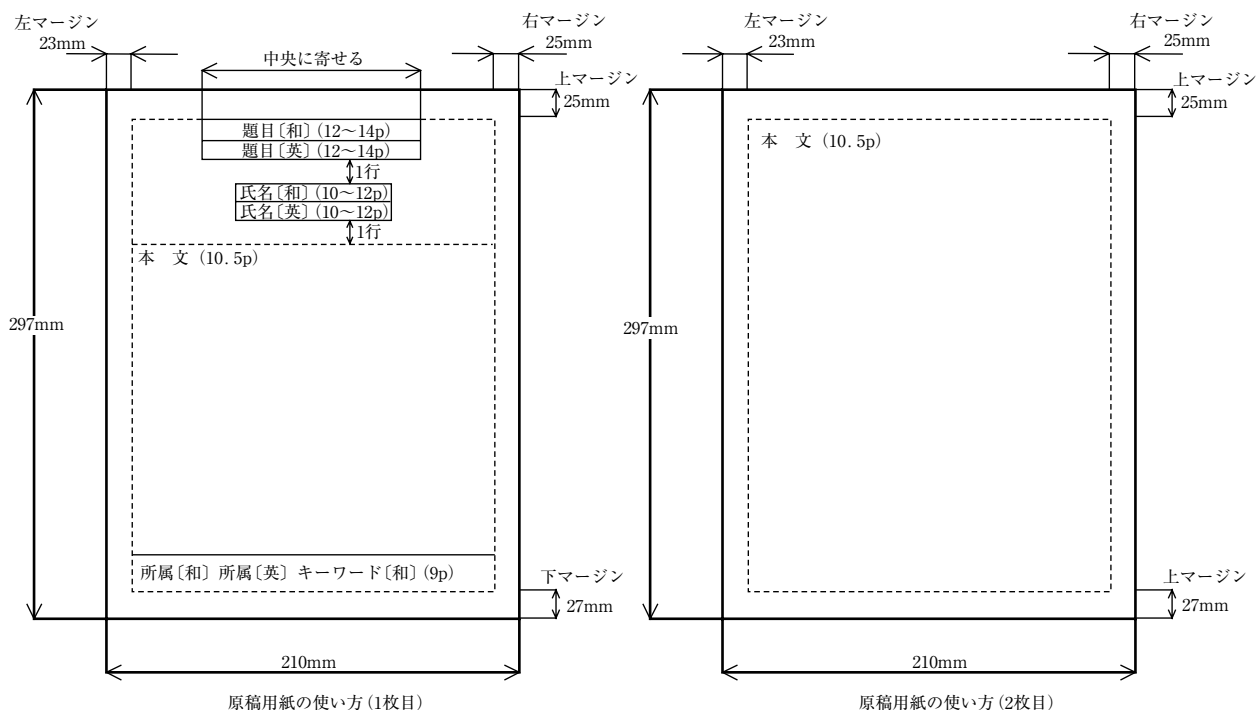
所属は、1 ページ目本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9 ポイントで 1 行に和英併記して下さい。所属に続けてキーワード〔和〕を書いて下さい。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に*や**を付けて、講演者と所属が対応するようにして下さい。

本文は、第 7 行から書き始めて下さい。2 ページ目は第 1 行から書いて下さい。

- ③ 図・表・写真：本文とともに原稿用紙内に書込み（あるいは貼込み）、幅いっぱいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにして下さい。なお、図表表題にも英語を併記して下さい。

- (4) その他：2 枚の原稿（コピー含む）の裏面右上に、鉛筆で、代表発表者名およびページを記入して下さい。

5. 著作権 講演要旨集と大会概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権，コピーライト）は，（社）農業土木学会に帰属します。また，講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。



キーワード表			
1. 水 理	2. 水文・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質水文 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応 用 力 学	6. 材 料 ・ 施 工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリ 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 農業土木教育・農業情報
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農地景観	環境保全 環境影響評価 水質 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット

(注意) 平成 18 年 12 月 4 日に開催した大会プログラム編成小委員会において改訂

受付月日	No.	申込金受領	会場番号	講演番号

平成19年度大会講演会投稿票

1. 講演者の氏名・所属機関（共同研究の場合は、代表発表者に○印をつけて下さい。氏名の順序は原稿と一致させて下さい。）

	代表発表 者に印	会員番号	氏 名	フリガナ	所属（和）
				ローマ字（姓__名）	所属（英）
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

代表者の連絡先（住 所）〒

(TEL)

(FAX)

E-mail

Excel ファイルの送信日：

2. 講演題目（題目および副題は、必ず本文と同じものを記入して下さい。）

(和文)

(英文)

3. 講演希望部門（第1希望部門と、第2希望部門を数字で記入して下さい。）

第1希望		第2希望	
------	--	------	--

1. 水理 2. 水文・気象 3. 土壌物理 4. 土質力学 5. 応用力学 6. 材料・施工 7. 灌漑排水
8. 農地造成・整備・保全 9. 農村計画 10. 環境保全 11. 生態環境 12. 農業土木教育・農業情報

4. キーワード（上記の講演希望部門に関連したキーワードを1個以上、記入して下さい。）

1		2		3	
---	--	---	--	---	--

5. 図表などの数

写真枚数	図枚数	表枚数	参考文献数

6. 発表形態

--

1. 口頭発表 2. ポスター発表

7. プログラム編成上必要な場合、発表形態の変更に応じて頂けますか？

--

Y. 諾 N. 否

8. 講演の概要(200字)（必ず日本語で記入して下さい。）

--

平成 19 年度大会講演会における「企画セッション」の募集

研究委員会

平成 19 年度大会(8 月 28～30 日、島根大学)における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募ください。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとします。

企画の申込締切は 1 月 31 日(水)です。お申込みにあたって、下記事項を学会事務局(taikai@jsidre.or.jp)まで電子メールにてお知らせください。

- 1) 企画セッションのタイプ「オープン・タイプ」, 「クローズド・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名, 所属, 連絡先電話・FAX・E-mail
- 4) 企画セッションの概要(200 字以内)

「企画セッション」は、特定のトピックスについて、原則 90 分間のセッションを、オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は、通常の発表スタイルはもちろん、パネルディスカッション、会場の聴衆を含めた討論方式、等も可能です。ただし、セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも、最低 2～3 名以上の発表があることが前提です。なお、セッションの演者は会員であることを要しませんが、大会参加費のお支払いは必要となります。

企画セッションのテーマには、科研費研究グループや各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介、等を想定していますが、会員の皆様の自由な発想で企画セッションを利用してください。

各研究部会の研究集会も、この企画セッションの一つとして実施して下さい。研究部会は、企画セッションの開催に向け研究集会の内容をご検討ください。

また、類似した企画が提案された場合、また応募が多数におよ

んだ場合、調整をお願いすることがありますので、ご承知おき下さい。

企画セッションでの発表者は、従来の研究発表セッションとの複数発表を認めます。ただし、**企画セッションでの発表は、プログラム編成上の理由から、1 人 1 件に限り**ます。各オーガナイザーは発表者選定にあたり、十分お気をつけ下さい。

なお、企画セッションとはいえ、研究発表と同等ですので、講演要旨集には講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また、各セッションは 90 分を予定していますが、プログラムのブロック割りのため、セッション時間が 90 分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承ください。

各企画の申込料は、講演題数にかかわらず 6 題分(12,600 円)となります。

今後のスケジュールは、以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの**募集締切：1 月 31 日**(水)
2. 研究委員会で調整の後、応募テーマの採否の連絡：**2 月 13 日**(火)頃
3. 企画テーマの学会ホームページ上での公開と「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始(発表申込は各オーガナイザーに直接)：**2 月 13 日(火)頃**
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切：**2 月 26 日(月)**
5. オーガナイザーからセッションの講演要旨原稿の提出締切：**3 月 31 日(土)**

申込・問合先：(社) 農業土木学会大会企画セッション担当(花塚)

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail:taikai@jsidre.or.jp

第 23 回海外事情講演会 「中国の農村整備(村鎮建設)の現状と今後の展開」

—日中農村整備交流—

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請予定



12 月 11 日に開催予定でした海外事情講演会は延期になっておりましたが、下記の通り開催することといたしました。会員各位のご参加をお待ちしております。

記

1. 趣旨

近年の中国経済は目覚ましい発展を遂げている一方で、さまざまなメディアを通じて都市部と農村部或いは沿岸部と内陸部の経済格差が深刻な問題になっている状況は周知のことと思われます。また、中国統計局のデータによると人口は、2006 年 6 月末現在で 13 億 756 万人を抱え世界最大となっており、農村部だけでも 9 億

5千万人以上が居住するといわれています。

このように農村部に人口の7割を抱える中国は2020年までにGDPを2000年の4倍増とする目標を設定し、経済発展を最優先課題としつつ、都市・農村間の経済格差の是正、農民の社会保障制度改善といった農に身近な問題に重点的に取り組み、社会全体の調和のとれた発展を実現することを目指しています。

(財)日本水土総合研究所と中国建設部は1990年度に両国の農村整備に関する技術交流を開始し、今年度で交流16年目を迎えています。中国側の窓口である建設部村鎮建設弁公室は上述の目標を達成すべく、昨年行われた機構改革によって建設部内に新たに設立された組織であり、現在は農村のインフラ整備を中心とした「社会主義新農村建設」を全国的な規模で推進しています。

今般、中国建設部村鎮建設弁公室主任(局長級)を団長とする一行が本交流事業で来日されることとなり、中国の農村整備に関する現状と展開方向について講演をいただくことになりました。

中国の農業・農村を取り巻く諸状況について情報交換を実施す

ることは、今後の中国の農業・農村の発展のみならず、日本の農村整備の将来を考える上でも有意義であると考え、広く関係者に情報収集の場を提供いたします。

2. 主催：農業土木学会、農村計画学会、日本水土総合研究所

3. 日時：平成19年2月5日(月) 13:30—17:00

4. 会場：農業土木会館大会議室

5. 講演：中国側：李兵弟中国建設部村鎮建設弁公室主任

「社会主義新農村建設の現状と展開方向」(仮題)

日本側：仲家農林水産省農村振興局地域整備課長

「環境に配慮した農村整備に関する施策と展開方向」(仮題)

6. 定員：70名程度

7. 参加費：無料

8. その他：日中同時通訳あり

9. 申込み・問合せ先：農業土木学会担当(菊辻)

☎03-3436-3418 Fax.03-3435-8494

平成18年度 第9回中央講習会

農業・農村分野の展開方向—環境・資源・生態系の保全・創出とその課題

行事企画委員会

農業土木技術者継続教育認定プログラム



平成18年度中央講習会は、昨年に引き続き、農業・農村分野の新たな展開方向である、環境・資源・生態系の保全を中心に、本年度の各支部大会報告の中から、特に評価が高く、全国的なモデルになり得る地域の新たな取組について、最新の情報を発表致します。事例発表後に会場と発表者全員で意見交換を行います。奮ってご参加下さい。

記

1. 主催 農業土木学会行事企画委員会

2. 期 日 平成19年2月28日(水) 10:00~17:00

3. 場 所 東京大学弥生講堂一条ホール

東京都文京区弥生1-1-1(東京大学内)

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

4. プログラム(予定)

開会挨拶

10:10~11:20 基調講演 農業・農村分野の展開方向(仮題)

京都大学 三野 徹

11:20~12:00 講演 各支部からの報告

13:00~13:40 講演 〃

13:40~14:20 講演 〃

14:30~15:10 講演 〃

15:10~15:50 講演 〃

15:50~16:30 講演 〃

16:30~17:00 意見交換

5. 参加費 一般 4,000円、会員 2,000円、学生会員 1,000円

6. 申込み・問合せ先

参加申込書は学会HP(<http://www.jsidre.or.jp>)からダウンロードしてご利用下さい。

農業土木学会行事企画委員会担当宛

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い

農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じ

た時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方に事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

- ① 調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。
- ② 調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。

④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額 300 万円)。

⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03-3435-8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取扱います。

学会誌掲載報文等による通信教育について 農業土木学会行事企画委員会 農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を 11 月より本格実施しております。是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつ CPD 機構会員の方は、農業土木学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

これまで試行に参加いただいていた方は、改めてお申込まないでください。

なお、この機会に農業土木学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込みください。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

事務局は、機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担います。

4. 内容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1 CPD、満点で 1.5 CPD が取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

農業土木学会では、2003 年 1 月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006 年 12 月末には Vol. 4, No. 4 が発行されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象)

環境)

⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込みは, 学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局 (投稿先) の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では, 2003年1月に日本, 韓国, 台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して, 新たな国際学会 (国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering) を設立し, 機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊, 2006年12月末には Vol. 4, No. 4 が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に, SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており, 本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また, 世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに, SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが, 投稿料, 掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

編集事務局の移転: 2003年1月の学会設立以来, 農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが, 2006年1月1日からは新 Editor-in-Chief; 中野芳輔九州大学教授の下, 韓国農業工学会が今後 3 年間 (～2008年12月31日まで), 編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い, Editorial Panel の構成メンバー (編集体制) および新投稿先が下記ようになります。

ただし, 2005年12月末までに投稿された原稿は, 日本 (農業土木学会) の責任において進められ, Accept されたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

新投稿先: PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG

International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel: +82-2-562-3627, 562-3613 Fax: +82-2-565-6821

Email: sjhwang@konkuk.ac.kr, paweess@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は, 水田農業地帯における灌漑と排水, 土壤保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等 である。

編集体制 (2006.1.1～2008.12.31)

• **Editor-in-Chief:** Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, Japan

• **Editors** 13 カ国から 14 名

• **Editing Board** 32 名

• **Managing Editors**

Chief Managing Editor: Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！

農業土木学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業土木学会ホームページ

に掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌 75 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4 判 1,500 字以内)	原 稿 締 切 (刷り上り 4 ページ厳守)
75 巻 2 号 国営第 1 号巨椋池干拓の歴史的意義	公募なし	
3 号 新潟県中越地震の復興対策と危機管理 (I) (仮)	公募終了	
4 号 〃 (II) (仮)	公募終了	平成 18 年 12 月 15 日
5 号		
6 号 大会関連	公募なし	平成 19 年 2 月 15 日
7 号 持続循環型農業農村技術開発 (仮)	平成 19 年 2 月 25 日	平成 19 年 4 月 13 日
8 号 農地・水・環境保全向上対策に向けて (仮)		平成 19 年 4 月 30 日
9 号 農地からの土壌流出及びその対策 (仮)	平成 19 年 3 月 23 日	平成 19 年 5 月 15 日
10 号 農業農村分野における GIS の活用 (仮)	平成 19 年 4 月 25 日	平成 19 年 6 月 15 日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 (社) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494 E-mail henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勧める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勧める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり 1 ページ (1,800 字程度) で、写真を 1 ～2 枚程度入れてください。

私の勧める本は、原稿の長さ：1,200 字 (写真・体裁等含む刷り上がり 1 ページ以内原稿には表紙の写真を含めて下さい)

75 巻 7 号テーマ「持続循環型の農業農村へ向けた技術開発 (仮)」

近年、国内の農業農村整備事業では、環境に配慮した整備が着実に進められてきており、また国民の環境への関心も高まりつつあります。

一方、地球レベルに視点を移すと、開発途上国を中心に、農民は貧困や栄養不足等の厳しい生存条件の中でより多くの生産と収入を得るため、過度な耕作、放牧、森林伐採を行うなど資源取奪的な生産活動を余儀なくされてきました。

その結果、商業的農業の進展と合わせて、土地や水等の農業を営む上で不可欠な資源が急速に劣化し、砂漠化や熱帯林の減少など地球的規模の環境問題が引き起こされています。

そこで、わが国をはじめとする世界各国においてさまざまな取組みが進められています。

たとえば、2006 年に農林水産省農村振興局が取りまとめた「農業農村開発協力の展開方向」では、貧困・飢餓の撲滅、地球環境

の保全等を実現するためには、資源収奪型の農業農村から、限りある資源を有効活用する持続的で循環型の農業農村へ移行する必要があると提案されています。

また、具体的な対策として、小水力発電等の代替エネルギーの導入や、CO₂の吸収源となる農地の保全により温室ガスを削減するなどの地域資源を活用した対策技術、半乾燥地域における農業・森林・牧畜を地域の状況に応じて連携させ土壤保全していく循環型の砂漠化防止対策、農民自ら持続的に維持管理できる末端灌漑施設の整備手法の開発等が提案され、実現に向けた取組みが始められています。

75巻9号テーマ「農地からの土壌流出とその対策」

降雨時に農地から土壌が流出すると、下流側の水質環境にさまざまな影響を及ぼすことがあります。具体的には、土粒子とともに流出した栄養塩による閉鎖性水域の富栄養化、土粒子そのものによる河川の濁り、また土粒子を含む河川水が湖沼や海域まで到達した後の濁りの長期化や岸辺での土粒子の堆積、といった事例があげられます。農山村地域では本来、森林や水田の存在により表土が流出しにくい土地利用管理がなされていましたが、近年の農山村を取り巻く状況の変化から、その保全管理が十分なされないことに起因して、土壌浸食とそれに付随した問題の発生が懸念されているところです。

このような取組みを進めるには、国内外におけるわが国農業農村開発の経験と知見を活用しつつ、地域住民の参画を含めた持続的発展が可能となる農業農村整備を展開していくことが重要であり、そのための知識・技術手法の開発・活用・改良が求められています。

そこで、地球環境の保全を視野に入れた新たな農業農村開発協力を進めるという観点から、持続循環型の農業農村へ向けた技術開発に焦点を当てた報文特集を企画することとし、かかるテーマについての研究、技術、事例紹介などを広く募集致します。

土砂の流出量は、土壌の特性だけでなく、農法や地形・植生・気象条件等によって変化します。そのため、土壌流出に対しては農地それぞれの特性を考慮した対策が必要となり、現象解明を目的としたさまざまな調査研究と、その抑制にむけた対策手法が精力的に取組まれてきました。

そこで、農地からの土壌流出に焦点をあて、土壌流出にかかる室内実験・現地観測など、現象解明を目的とした最先端の研究報告や、農地や水路における流出抑制対策手法、または土地利用や水利管理による広域的な土壌流出抑制にむけた取組み、にかかわる報告を募集します。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう !! 「水土の知（農業土木学会誌）」平成 20 年秋季～冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成 20 年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。テーマは昨年と同様で、「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第 76 巻（平成 20 年 1～12 月号）のうち、特に秋季～冬季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかってくるようです。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言える名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

みなさんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦労が垣

間見える造形美」を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定）撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記してください。

3. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

4. 締切 平成 19 年 3 月 30 日（秋季～冬季の写真）

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してどっと崩れない、ことが採用の条件となります。

第44回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第3報）

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 主 催 農業土木学会材料施工研究部会
2. テーマ 土地改良施設の非破壊検査・調査と試験
3. キーワード 土地改良施設、非破壊検査、非破壊調査、非破壊試験、機能診断
4. 期 日 平成19年2月2日（金） 9:50～17:00
5. 会 場 兵庫県中央労働センター 大ホール（210～320席）
〒650-0011 神戸市中央区下山手通6丁目3-28
☎078-341-2271 FAX 078-341-7332
<http://www.hyogo-chuoroudo-center.jp/>
6. プログラム 司会：高知大学農学部教授 松本 伸介
 - I. 開会式 9:50～10:00
 - II. 材料施工研究部会研究奨励賞授与式 10:00～10:30
 - III. 講演発表 10:30～15:45
 - <基調講演>10:30～11:30
10:30～ コンクリート構造物の非破壊試験の動向と展開
熊本大学大学院自然科学研究科教授 大津 政康
 - <土構造物の非破壊検査と調査・試験>12:30～14:00
12:30～ (1) 地盤・土構造物の原位置非破壊振動実験(仮)
岐阜大学応用生物科学部教授 清水 英良
 - 13:00～ (2) 電磁気を用いた土構造物の非破壊調査
農村工学研究所主任研究員 森 充広
 - 13:30～ (3) 弾性波および電磁波を用いた土構造物の非破壊検査
京都大学大学院農学研究科助教授 小林 晃
 - <コンクリート構造物または管路の非破壊検査と調査・試験>14:15～15:45
14:15～ (4) AE法に基づく老朽化配管施設の損傷度評価法の開発(仮)
日本大学生物資源科学部助手 鈴木 哲也
 - IV. パネルディスカッション 16:00～17:00
コーディネーター：新潟大学農学部教授 森井 俊広
7. 参加費 4,000円
当日受付で徴収させていただきます。
8. 申 込 ①参加者氏名、②所属機関名、③所在地住所、④TEL、FAX、E-mail、⑤弁当（代金¥1000）希望の有・無、をお書きの上、FAXもしくはE-mailにてお申込み下さい。また、表題として、「材料施工研究部会シンポジウムの参加」と明記して下さい。
9. 申込先 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1
神戸大学農学部 気付 材料施工研究部会事務局
申込み担当者：井上 一哉
TEL&FAX：078-803-5853
E-mail:mornel@kobe-u.ac.jp
10. 申込締切 平成19年1月26日（金）（締切りを延長しました）
11. 宿 泊 各自で手配下さい。
12. 問合せ先 申込先と同じです。

水土文化研究部会第4回研究会のお知らせ 「水土・持続のテクノロジー」

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



（社）農業土木学会のビジョン『新たな〈水土の知〉の定礎に向けて』において、「水土」は「〈水〉と〈土〉と〈人〉の複合系」と定義されています。この概念は、農業の視点から見た地表の諸事物のあり方を基本としており、モンスーンアジアに卓越する水田農業にその基礎を多く負っているとはいえ、気候の違いや家畜との結合などにより、地球上に個性豊かに展開するさまざまな様相を包含するものです。

水土を持続させることは生存の基礎です。それぞれの地域にはそれぞれの水土に応じ、いわゆる工学技術だけでなく、「あえて手をつけず自然に委ねること」という選択までを含んだ、持続のための幅広い固有の作法・技法が存在します。不適切に扱えば、生存基盤である水土を損ね、再生不能に至らしめる事態を招きかねません。かつて栄華を誇った幾多の文明も、水土の損壊を顧みな

かった結果崩壊しました。地球環境の危機が叫ばれる現在、その厳粛な事実を肝に銘じる必要があるのではないのでしょうか。

このような認識から、本研究会では、水土を健全に維持運営するために培われてきた〈水土の知〉の広がりについて、地球規模に視野を広げて考えてみます。わが国の水田農業に基礎を置いた水土と持続のテクノロジーをはじめ、地域それぞれの水土に応じたテクノロジーのあり方、考え方について、認識と議論を深める糸口となれば幸いです。

内容は別添のとおりとなっております。ふるってご参加下さるよう、お知らせ申し上げます。

第4回研究会担当幹事
広瀬 伸（国土交通省）

研究会の内容は下記のとおりです。

記

1. 日時 平成19年2月8日(木) 13時～16時
2. 場所 虎ノ門パストラル・新館1階「鳳凰西」
〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-1
☎03-3432-7261 (代)
3. テーマ 水土・持続のテクノロジー
プログラム

①講演(表題は変更されることがあります)

「水土持続の論理と倫理」

東京工業大学教授 桑子敏雄

「“ノマド”という水土—モンゴル高原から」

国立民族学博物館教授 小長谷有紀

「地球環境への〈水土の知〉の展望」

総合地球環境学研究所教授 渡辺紹裕

②パネルディスカッション

パネラー+コーディネーター(国土交通省道路局 広瀬 伸)

4. 参加費 無料

5. 参加申込および連絡先

〒305-8609

茨城県つくば市観音台2-1-6

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所

農村総合研究部都市農村交流研究チーム(担当 山下裕作)

☎029-838-7559 FAX 029-838-7609

E-mail:yamash@affrc.go.jp

6. 参加申込要領

整理の都合上、2月1日(水)までに以下の要領にてお申込み下さい。

氏名 (CPD番号)

所属機関

所在地

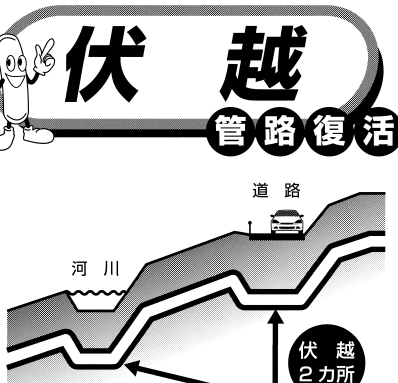
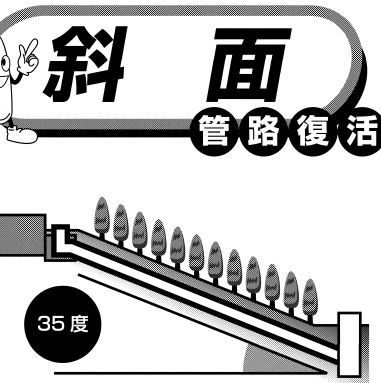
電話番号

FAX番号

*部会員以外の方も参加できます

* (社)土地改良建設協会研修会との連携行事となっております

こんな管路も、復活できます。

 長距離 管路復活 ●実績例: ø600×558m / 1スパン	 伏越 管路復活 ●実績例: ø400×200m / 伏越2カ所 / 1スパン	 斜面 管路復活 ●実績例: ø900×150m / 35度 / 高低差54m
--	--	---

低コスト・短工期
施工後は管路機能がアップ

インシチュフォーム工法

世界40カ国以上の実績が、農業水利の更生事業をお手伝い致します。

●詳しいお問い合わせはこちらまで



日本インシチュフォーム協会

www.insituform.gr.jp

事務局 〒163-1036 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 36階 TEL: 03-3346-8022 / FAX: 03-3346-8024